授業科目	情報処理入門					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	若菜　啓孝						
授業概要	現代社会においては、日常生活や様々な職業上の業務においてコンピュータが不可欠となっており、同時に誰もが目的に応じて情報を扱う能力を求められています。そのためには、情報や情報処理の概念や原理の理解と情報機器やソフトウェアを使用する技能の習得が必要となり、今後の Socity5.0 の時代に備える必要もあります。 　この授業では、情報技術の発展による現在の社会変化とを知るとともに、コンピュータおよびネットワークの仕組み、情報理論の基礎知識、情報検索、情報倫理について学びます。 さらに、大学での学修で必要となる情報処理技術を実践的に学ぶこととし、具体的には文書作成・プレゼン資料作成ソフトを活用できる技能および表計算ソフトによる集計機能・グラフ機能・データベース機能の演習を通し、初歩的な統計的判断を行うことができる技能を修得します。						
授業形態	講義・演習			授業方法	反転授業、演習が主体		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．データや情報の収集，採取したデータの加工，加工した結果の発信を理解する。（DP-1） 2．情報処理の概念や原理の理解し説明できる。（DP-1） 3．ネットワーク活用に対して留意点を説明できる。（DP-1） 4．　Word、Powerpoint および Excel の基本機能が使える。（DP-５）
理想的レベル	1. 表計算ソフトで一覧表を作成できる。 2. 写真や図表を文書に取り込んだ複合的な文書を作成することができる。 3. レイアウト・フォント・色などを意識して整った書類を作成できる。 4. 作成した複合的な文書を再利用して活用することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	20%	
レポート	50%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH10502J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
復習：当該部分の復習	4

授業計画

第１回	講義概要および使用機器の説明 今後の社会変化（第 4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）と情報処理 （実）Office 系ソフトの操作現状調査、Classroom 使い方

第 2 回	社会におけるデータ・AI 利活用 （実）WORD 基本操作
第 3 回	ネットワークの基礎 ネットワークの構成、インターネットの基礎、クラウド （実）WORD 基本操作
第 4 回	ネットワーク利用と情報の検索 WWW、情報の検索、SNS、ネットショッピング、ネットバンキング、電子マネー、情報セキュリティ （実）WORD 基本操作
第 5 回	データと倫理 ELSI（個人情報保護、著作権、情報倫理、ＡI 倫理など） 実）Powerpoint 基本操作
第 6 回	コンピュータの基礎 AI とコンピュータ（コンピュータの構成、オペレーティングシステムの基礎） （実）Powerpoint 基本操作
第 7 回	情報のデジタル化（画像・音声・映像） データの単位と容量 （実）Excel の基本操作（計算・グラフ）
第 8 回	データの要約（収集・整理） オープンデータ、公的統計データ （実）Excel の基本操作（計算・グラフ）
第 9 回	データの要約（収集・整理） メタデータ、１次データ、２次データ、データクリーニング （実）Excel の基本操作（関数・グラフ）
第 10 回	データの要約（整理・加工） （実）Excel の基本操作（関数・分析）
第 11 回	データの要約（整理・加工） （実）Excel の基本操作（データベース）
第 12 回	データの要約（整理・加工） （実）Excel の基本操作（ピボットテーブル）

第 13 回	データの表現 （実）Office 系ソフト応用操作①（連携）
第 14 回	データの表現 （実）Office 系ソフト応用操作②（連携）
第 15 回	総合演習 プレゼン・相互評価
テキスト	プリントを配布する.
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	例えば はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス　noa 出版 これだけは知っておこう！ 情報リテラシー（第 4 版）　noa 出版　など
課題に対するフィードバックの方法	確認テストと課題提出により評価します。（確認テストの方法は、授業内で通知します） 随時、オンラインツールを活用してフィードバックします。
学生へのメッセージ・コメント	適宜、事前事後の課題を出します。 現在、オンラインで学べる教材は多くあります。授業だけではなく積極的に活用し学んで下さい。